

安心してください！ 防災やっていますよ！

昨今、災害はいつどこで発生してもおかしくない状態です。これらは予告なく我々を襲ってきます。今回は『台風』の対応について考えてみましょう。

日本では、昔から台風被害を毎年同じように受けてきました。昭和以降の台風の中で特に被害の大きかった3個の台風を「昭和の三大台風」と呼びます。室戸台風、枕崎台風、伊勢湾台風。多くの命が奪われました。それらは不思議なことに9月に集中しています。

台風は個々に特徴があり発生する被害が違います。更に毎回形を変えて、我々の備え以上の脅威として襲ってきます。台風被害は複雑で「大雨・高潮・強風・暴風」等、複合するため大きな被害を及ぼします。

「大雨」に注意！

台風の進行方向右側の地域は、大雨に対する、より一層の警戒が必要です。

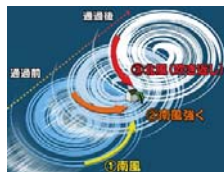


「高潮」に注意！

台風の風は反時計回りで、一般に進行方向右側で強くなっています。台風が西側を北上した場合に南風が吹き続けて高潮が起こりやすく満潮が重なると一層潮位が高くなり警戒が必要です。

「強風」に注意！

台風の進行方向右側で強い風が吹きやすくなります。



台風の時に気をつけること！

台風は「事前に備えができる災害」です。台風が接近してからでは間に合わない対策もあり、今からできる準備はしっかり整え、危険から身を守りましょう。

【家の外の備えは十分に】

側溝や排水溝の掃除で水はけを良くするなど、建物の点検、補強も普段からやっておきましょう。

【非常用品を備蓄する】

ライフラインが途絶えた時を想定して、自分に必要なものを確認し非常用品を備えましょう。

【家族で話し合う】

家族で携帯電話に頼らない緊急連絡手段と落ち合う場所などを話し合ひましょう。

【近所の方とコミュニケーションをとる】

ご近所付き合いは、救助や避難所暮らしの際に大きな力となります。普段からの挨拶をすることが大切。

接近する前にできることが沢山あります！

気象庁や気象情報会社で台風の進路予想が定期的に更新されます。最新の台風情報を入手し、大雨や暴風などの警報・注意報や、天気予報、雨雲の動きなど、こまめに気象情報を確認しましょう。

【家の周りの再点検】

強風によって飛ばされる可能性のあるものは、室内にしまおうか、飛ばされないように固定しましょう。

【ライフライン断絶に備える】

断水に備えて飲料水の確保や浴槽に水を張るなど、生活用水を確保しましょう。

【自分の身は自分で守る】

避難勧告が出ていなくても、早めに安全な場所へ自主的に避難する防災意識を高めることが重要です。

台風が近づいたら絶対にやめること

■河川や用水路の見回りは絶対にやめる！

増水した用水路は道路との境目が分かりにくいので、足を取られる恐れがあります。

■海岸の見回りは絶対にやめる！

防波堤や海岸などでは高潮の恐れがあります。

■屋外での作業は絶対にやめましょう！

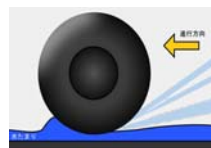
暴風や突風にあおられて転倒する危険があります。

■外出はできる限り控える！

大雨や強風による事故に巻き込まれないよう外出を控えてください。特に夜間の外出を控えましょう。

■車での避難には注意が必要！

20mm/h以上の降水量でワイパーは効果が乏しく、ブレーキが効かなくなる可能性があります。



■やむを得ず外出している場合は！

外出先、とりわけ地下空間は、雨の強さや天候の急変が分かり辛く、地上が冠水すると一気に水が流れ込み、避難することが困難になります。早めの避難を！

■避難勧告に従う！

避難準備情報に注意し、市町村から避難勧告や避難指示があれば、すぐに動けるように準備し、すばやく避難するか、避難と同様の行動をとりましょう。

■避難方法は！

遠くの避難場所へ避難するより、近所の2階以上の頑丈な建物に避難するほうが安全な場合もあります。周囲の状況など総合的に判断し行動しましょう。

■避難の前には火の元の確認をする！

避難する際には、火の元、ガスの元栓、電気のブレーカーを落とし、戸締まりを確認しましょう。

■避難するときは軽装で！

避難の際は持ち物を最小限にし、両手を自由に使えるようにしておきましょう。

(今回の記事は日本気象協会の資料を引用)



さて、自分ができる重要で簡単な防災活動があります！それは「あいさつ」。挨拶をすることが大きな備えになります。これは過去の災害の教訓の中でも最も重要で有効だと云われているものです。「日頃の挨拶が重要な防災活動になる」これ本当の話です！